

vol. 9

もっと知りたい！熊本市 KUMAMOTO CITY

まちづくり探検隊



「探検隊」メンバーが、まちづくりや地域活動のキーパーソンに突撃インタビューする「聞かせて 地域の元気モン」。今回は、PTA主催で、学校の教室や体育館を活用して「防災キャンプ」を開いた、託麻原小PTA会長の漆野和也さんに話を聞きました。

私たちが話を聞きました！

「防災訓練」や「避難訓練」と何が違うの？

心肺蘇生やAED装着は初体験なので緊張します(汗)

探検隊メンバー
フェレロ恵美さん(55)
善明ジャンくん(9)



探検隊メンバー
森崎友裕さん(53)



今週の元気モン

「防災キャンプ」を企画した
託麻原小学校PTA
会長 漆野和也さん(41)

1977年、熊本市生まれ。大学卒業後、熊本市消防局に入局。出水出張所所長、救急隊隊長、特別救助隊副隊長などを経て、現在は東区役所総務企画課で防災担当を務める。1男1女の父で、託麻原小PTA会長を務めて4年目。今年初めて、防災キャンプを企画。



親子で防災の大切さを学び 災害に強い町づくりを目指しています！

探検隊メンバーもキャンプに参加 さまざまな防災・救命活動を体験！

7月21日・22日に託麻原小で実施された「防災キャンプ」。子どもたちは1泊2日で心肺蘇生法やAED取り扱い、応急担架作成など災害時に役立つ知識をみっちり学び、着衣水泳や起震車乗車などさまざまな体験をしました。夕・朝食は災害時の非常食を調理。キャンプを通じて、子どもたちは防災について実践的に学びました。初日の体験型防災学習の時間に探検隊メンバーも参加しました。

竹と毛布で応急担架を作成。正しく毛布を折れば、大人を運ぶこともできます



▲真剣な表情で子どもたちに心肺蘇生法の説明を行う漆野さん



▲普段、着衣では入れないプールで初めは興奮気味の子もたち。しかし、徐々に「動きにくい」「寒い」と着衣水泳の難しさを体感

取材を終えて



防災キャンプで学んだことや経験を生かし、災害に遭遇した場合に、「助けられる人」から「助ける人」になりたいと思いました。(森崎さん)

防災キャンプを、熊本から全国に広げてほしいですね。私は、この経験を次の世代へ伝えていきたいと思っています。(フェレロさん)

Q1 「防災キャンプ」を実施した 目的は何ですか？

子どもの時の学び、経験が将来の担い手育成に

まず、熊本地震を風化させないこと。次に、子どもたちが、防災の知識や情報を学び、集団生活をする中で自らの安全を守るだけでなく、自助・共助の大切さを感じてほしい。キャンプでの経験や学びが、将来の地域防災を担う人材育成につながればと思っています。

Q2 PTAが主催して「防災キャンプ」に 取り組もうと思ったきっかけは？

子どもが親に伝えることで防災意識に変化

自治体が主催する「防災キャンプ」もありますが、各学校から少数で参加することが多く、子どもたちも少し緊張しがち。日頃から顔なじみの先生や保護者、友達と一緒にリラックスできて、情報も頭の中に入りやすいと思います。今回は5、6年生43人が参加しました。彼らが学んだことを家庭で話せば、親の意識も変わり、「災害に強い町づくり」の底上げにつながると考えています。また、PTA会長として、消防士というスキルを生かし、地域に恩返しをしたいというのも理由の一つです。

Q3 「防災キャンプ」を開催して 感じたことや今後についての思いは？

熊本市全域に防災の輪を広げたい

防災意識の向上に近道はなく、地道に継続していくことが大事。託麻原校区だけでなく、熊本市92校区4地区すべてに、この輪を広げていきたいですね。内容が違って構わないと思います。各校区PTAが、保護者のスキルや得意分野を生かしたプログラムを企画・実施すれば、負担も軽く継続も可能です。地域活動で大切なのは、「頑張り過ぎない」こと。校区自治協議会等とも連携して、「みんながちょっとずつ」できる環境をつくっていくことが大切です。

元気モンの格闘



自分の得意分野を生かし地域活動を継続

